

ICTを使った 地域ICTネットワークの構築

公益社団法人 宮崎市郡医師会 地域包括ケア推進センター
社会福祉士 吉田 修

内容

- ICT導入する際のルール作りについて・ユーザー向け研修について
- ICT導入後の課題やツールの活用効果
- 今後の活用

事業所の紹介

宮崎市郡医師会 在宅介護支援センター（基幹型在会）

平成13年2月～平成18年3月

宮崎市中央地区地域包括支援センター

平成18年4月～平成22年3月

宮崎市中央東・檉北地区地域包括支援センター（担当地区変更のため）

平成22年4月～令和 2年3月

宮崎市郡医師会 地域包括ケア推進センター（在宅医療介護連携推進事業）

令和 2年6月～現在

（在宅医療に必要な連携を担う拠点）令和 7年4月～現在

令和8年6月1日現在の職員

保健師2名 社会福祉士1名 主任介護支援専門員1名 合計4名



令和2年8月に医師会病院が新築移転
関連施設も集約移転となる。

ICT導入対する取組

平成30年度後半より取組開始 下記の委員会等で検討を行う

名称	内容
宮崎東諸県在宅医療介護連携推進協議会	活動内容を報告
MICT運営委員会（在宅医会理事会）	システムの運用等について検討する。利用促進に係る広報活動の検討。ポリシーの作成等。
ICT企画検証委員会（ICT検討チーム）	ICTの活用方法等について協議し、報告・提案等を行う。多職種で構成する。

MICT運営委員会

事務局が中心となり、ポリシー作成など実施。当時参考にしたのは「とちまるネット」様を参考に作成。

ICT企画検証委員会（宮崎東諸県在宅医療介護連携推進協議会のワーキングチーム）

実際に架空の患者さんを作成して多職種で情報共有を実施。問題点などをMICT運営委員会へ報告を行う。

※ 導入アプリは株式会社 コラボスクエアのMCS（メディカルケアステーション）を利用しています。

MCS (メディカルケアステーション)

MCS (メディカルケアステーション)とは
多職種がリアルタイムに情報共有する多職種連携ツールになります。



関わるメンバーにいつでも・どこでも情報
を共有でき、連絡業務の手間がグッと
減ります。

いつでもどこでも、チームに共有したい情報をMCSに投稿するだけ。電話やFAXなどの情報連携でかかっていた手間と時間を短縮できます。投稿は時系列で残り、忙しいときは後から見返ることができるので連携漏れの心配はありません。読んだら、「了解」ボタンを押すだけで情報を把握していることを伝えられるなど、業務の負担にならずに情報連携ができます。



電話やFAXでは遠慮もあり、緊急性の高いケース以外は夜間や土日の情報がタイムリーに上がってくることはありませんでしたが、MCSでは些細なことでも書き込まれるため、その後の予測が立てられます。24時間訪問介護のスタッフさんが、夜間に『患者さんから連絡があったので訪問しました。出血痕があったので画像を添付します』と書き込んでくれたことも [この事例を見る](#)

ウェブブラウザで利用可能。アプリでも利用可能。
Android,iPhoneのどちらでも利用可能。
Windows,Macのどちらでも利用可能。

(株) コラボスクエアとの連携

(株) コラボスクエアとの連携

① アカウント登録の手続き連携

- ・MCSを使いたい事業所から依頼があったときに、地域包括ケア推進センター経由で一括登録を依頼。

② 多職種からの相談

- ・多職種からMCSの利用方法や手続きについて相談があったときに、MCSサポートセンターへメール相談対応。

③ 研修の実施について

- ・地域の多職種向けにMCS研修を行う際に、(株) コラボスクエアスタッフの講師派遣対応(※)。
※Zoomでの派遣。有料。

④ 「お知らせ」で重要情報共有

- ・MCSの機能に「お知らせ」があり、新しい機能の追加、仕様の変更など、MCS側から全ユーザーへ案内あり。
- ・MCSを使った、各地域の災害や多職種連携の記事を紹介。

運用するためのルール作りについて

MICT運営委員会で協議

事務局側でルール作りのための資料を作成

(関係書類等をHPに掲載中)

宮崎市郡医師会地域包括ケア推進センターHP

https://www.cure.or.jp/houkatsu_care/document/mcs.html

・運用するためのポリシー作成(構成内容)

(本ポリシーの目的)(ICT利用の目的)(使用ICTアプリケーション)(利用支援事務局)
(MCSの位置付け)(他の連絡手段との使い分け)(利用の対象者)(法令及びガイドライン)
(目的外使用の禁止)(MCS利用者の責任)(利用申し込み)(利用管理者の設置)
(利用管理者の責務)(スタッフ誓約書と教育)(患者の同意取得)(利用上の留意事項)
(ID・パスワードの管理)(セキュリティ対策)(内容の二次利用の原則禁止)(掲載内容の配慮)
(ホームページ掲載)(事業所等管理者連絡網ならびに利用者連携網)(災害時連絡手段としての活用)

・運用するための細則を作成

実際に活用する際の、使い方等

(MCSの管理 患者タイムライン)(MCSの管理 自由グループ)(MCSの管理 つながり)

・事務局側に提出する書類を作成

申込用紙等

・運用するための必要な書類の作成

患者同意書・スタッフ誓約書の書式等

運用するためのルール作りについて

企画検証委員会で検証

多職種に参加いただき実際に活用してもらい意見をもらう

(構成メンバー)

- ・医師4名、歯科医師2名、薬剤師2名、看護師4名、介護支援専門員2名、理学療法士1名、地域包括支援センター1名、地域医療連携室1名

【出てきた主な意見】

- ・医療機関の医師が意識しないと広まらない。
- ・人によっては、ICTを苦手とする人がいる。
- ・各多職種関係団体が行う研修等で広報や研修が必要。
- ・操作やアドバイスをしてくれるスタッフが必要。
- ・急変時や大事な連絡は電話を使うことが大切。

【結果】

講習会の必要性（実際にさわってもらわないとどのようなものか分からないため。）

導入する際の課題！

スマホやアプリなどICT関係が苦手な方が多い

導入当時事業所携帯電話はガラケーが主流
スマホの操作ができず、ログインが出来ない方が続出

開催日	参加者数
平成31年1月29日	68
平成31年2月25日	9
平成31年3月1日	232
平成31年3月8日	45
平成31年3月25日	68
平成31年4月5日	12
平成31年4月9日	9
平成31年4月26日	13
令和1年5月11日	164
令和1年5月30日	20
令和1年6月18日	34
令和1年7月22日	46
令和1年8月20日	40
令和1年9月17日	31
令和1年10月15日	44
令和1年11月19日	38
令和1年12月11日	18
令和1年12月12日	15
令和2年1月30日	45

【対策】操作説明の研修会を集合で実施

- ・操作練習用のスマホとPCで練習アカウントを使い全員に操作をしてもらいました。
- ・平成31年・令和元年は毎月研修会を実施し、多職種が参加しました。
- ・新型コロナ流行のため令和2年以降は集合研修自粛しました。
- ・個別研修やDVD研修等実施しています。



宮崎市郡医師会看護学校の教室を借りて研修

導入する際の課題2

アカウントを作成するためのメールアドレスが事業所がない

MCSを利用するためには、メールアドレスが必要。

事業所のメールアドレスは1個ぐらいのため、スタッフ分の複数アカウント確保できない。

【対策】

メールサーバを使ってメールアドレスを事務局側で発行

関係団体に協力をいただきメールサーバをお借りして利用する。

事業所毎に申込をしてもらいメールアドレスをまとめて発行。

【メリット】

事業所のスタッフメアドをまとめて管理。

1人1アカウント作成できる。

通知メールを回避することができる。

【デメリット】

手間がかかる。

離職者などの報告をもらい発行したメアドを管理するのが大変。

※現在は、この対応は終了しています。
各自メアドを用意してもらっています。
メールアドレスなしでも登録可能な機能もMCSにあります。

導入する際良かった事

訪問看護ステーションが広報に活躍

患者さんグループを作ったとき、介護支援専門員さんや他の多職種が参加していない場合声かけしてくれる。

在宅訪問診療をしているDrが中心に取組を開始した。

患者グループを作成したときに、医師、看護師は参加しているが、介護支援専門員、入所施設スタッフ、通所のスタッフなどが参加していない場合が多い。

訪問看護ステーションの看護師さんが、便利さ等を紹介してくれ、事務局に連絡をいただける。

その後、個別に研修を行い利用を開始する事が多くあった。

実際に活用してみても

利用している方の声

【クリニック 医師】

- ・有料老人ホームのスタッフが使うと、日々の状況がわかるので助かります。
- ・多職種が一斉に情報共有できるので便利です。



- ・医師としてMCSを使って指示を出す事に抵抗があります。



【訪問看護ステーション 看護師】

- ・医師との情報共有が頻繁なため、MCSで共有できるのは便利です。
- ・介護支援専門員さんだけ入ってないなどあり、そこだけ電話が必要だったりします。



【地域包括支援センター 社会福祉士】

- ・診察後の処方内容や検査結果など医療情報がアップされるので非常に助かります。



運用する中で見えてきた課題！

連携室が利用をしてくれない

電子カルテとインターネットにつながる端末が別々の事が多い。
電子カルテに記録をしてMCSを使う事に対して2度手間として敬遠される。

【対応】

電話やFAXやメールと同じコミュニケーションツールとして紹介。

例えば、「ケアマネさんに何度電話しても不在。」「折り返し電話が5時ぐらいにくる」などの課題を解決するために使うのはどうでしょうか？と提案する。



根強いFAX文化

【最新情報】

緩和ケア病棟をもっている医療機関や、在宅訪問診療の患者さん受入をしている医療機関が、Dr中心で利用が増えてきている。



運用する中で見えてきた課題2

利用を開始したが招待されない人が多数いる

患者グループ・自由グループに招待されない。職場の人との共有だけとなる人もいる。

【対策】

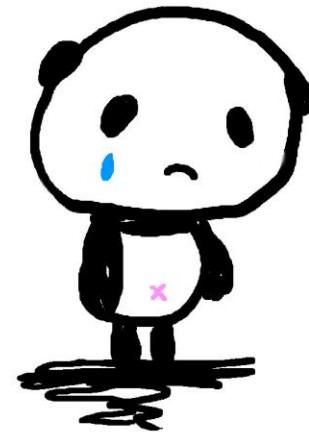
全員が参加できる地域ネットワークとしての掲示版を作成し、地域の情報を共有する。

1) MICTO（宮崎 ICT Organization）つながり・研修共有・災害対応 掲示版

- ①つながりをつくれます。
- ②研修情報の共有をします。
- ③災害時の情報共有掲示板として活用します。

2) 宮崎市郡 入院・入所・通所施設空床共有グループ

- ①参加している事業所から空床の情報を共有します。
 - ・定期的、不定期は問わず参加者にまかせている。
- ②施設等の自己紹介をしてもらいます。



つながり・研修共有・災害対応
... 4 = 2011

運用する中で見えてきた課題3

自由に使いたい方と介護系事業所の利用について

元々、フリーで使えるアプリなので事業所（個人）で使いたい
介護支援専門員や地域包括支援センタースタッフも患者（利用者）グループを使いたい

【対策】

自由に登録をしてもらってもok。MICTOグループはだれかに紹介してもらい参加可能。
・ご自身で登録をもらい、関係者と情報共有を行います。

介護系事業の活用については、現在ポリシーを見直し中。全員が患者（利用者）を立ち上げれるルールを検討中。
・他県の情報などを調査してポリシーの見直しを実施中。
・ICTワーキング部会で内容を検討し、宮崎東諸県医療介護連携協議会で協議する流れです。

ICT導入に対する取組

令和4年度より 下記の委員会で検討を行う

名称	開催予定など	内容
宮崎東諸県在宅医療介護連携推進協議会（協議会）	年2回程度	活動内容を報告
ICT部会	年2回程度	システムの運用等について検討する。利用促進に係る広報活動の検討。ポリシーの作成など。掲示版の活用方法、災害時の活用など検討。

ICT検討部会

課題として出てきた事に対して検討を実施。

構成 医師2名、歯科医師1名、薬剤師1名、介護支援専門員1名、訪問看護ステーション看護師1名
地域包括支援センター1名 合計7名

※全員MCSを使っているユーザーであること。

※ポリシーの見直しもICT検討部会で検討。その結果を宮崎東諸県在宅医療介護連携推進協議会へ報告。

令和4年度からICT部会として活動開始

実際のMSC画面（デモ患者さん）

地域 包：(患者リストデモ用)

利用プランの確認

一括招待

ヘルプ

お知らせ

ホーム

患者・利用者

グループ

つながり

コミュニティ

保管・削除

スタッフ

施設検索

アプリ一覧

連携サービス

ご意見・ご要望

その他

設定

ログアウト

✉



✓

地域 包

ちいき つつむ

男性 | 88歳

かかりつけ

本人

データ

宮崎市郡医師会 地域包括ケア推進センター

編集

管理施設の変更



医療・介護側 | 患者・利用者側

名前

地域 包

ちいき つつむ

一言メモ (名前の後ろに表示されます)

(患者リストデモ用)

疾患名

• 認知症

薬歴

未登録

連携ノート

未登録

出典元:株式会社 コラボスクエア

実際のMSC画面（デモ患者さん）

地域 包：(患者リストデモ用)

利用プランの確認一括招待ヘルプお知らせ

ホーム患者・利用者グループつながりコミュニティ保管・削除スタッフ施設検索アプリ一覧連携サービスご意見・ご要望その他設定ログアウト

地域 包 ⓘ (患者リストデモ用)

医療・介護側患者・利用者側

7人

+招待

メッセージを入力して下さい

ファイルアプリ通話テンプレート送信

2025/12/9 12:00

返信5件 最終更新(2025/12/9)

返信1件 最終更新(2025/11/27)

医療・介護 関係者 医師会職員

こんにちは

1 (1人)

返信1件 最終更新(2025/11/27)

医療・介護 関係者 はい

出典元:株式会社 コラボスクエア

実際のMSC画面（MICTO揭示版）

MICTO（宮崎 ICT Organization） つながり・研修共有・災害対応 揭示版

利用プランの確認一括招待ヘルプお知らせ

ホーム患者・利用者グループつながりコミュニティ保管・削除スタッフ施設検索アプリ一覧連携サービスご意見・ご要望その他設定ログアウト

MICTO（宮崎 ICT Organization） つながり・研修共有・災害対応 揭示版 ⓘ

投稿相談

メッセージを入力して下さい

ファイル通話テンプレート送信

吉田 修社会福祉士（宮崎市郡医師会 地域包括ケア推進センター）

【台風接近に伴う災害情報共有終了のお知らせ】

おはようございます。

台風被害みなさま無かったでしょうか？

揭示版にも特に災害情報提供なく、無事に台風をやり過ごした事と感じています。

今後も、台風、地震、豪雨などの災害時に情報共有揭示版として活用していきます。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

今回はご協力ありがとうございました。

👍 51 🙏 5 😊 (56人)

返信

吉田 修社会福祉士（宮崎市郡医師会 地域包括ケア推進センター）

【台風接近に伴う災害情報共有】

地域包括ケア推進センターの吉田です。

台風 6 号が接近していますが皆様大丈夫でしょうか？

台風接近にともないMICTO揭示版で災害情報共有を行いたいと思います。

昨午実施した訓練を参考に、道路状況、停電情報、施設等の自主避難所開設要請情報、施設の被害情報などの情報を提供したところ、各自情報をコメントで共有をお願いします。

実際のMSC画面（入院・入所・通所施設空床共有）

宮崎市郡 入院・入所・通所施設空床共有グループ

利用プランの確認

一括招待ヘルプお知らせ

ホーム患者・利用者グループつながりコミュニティ保管・削除スタッフ施設検索アプリ一覧連携サービスご意見・ご要望その他設定ログアウト

宮崎市郡 入院・入所・通所施設空床共有グループ

投稿相談

メッセージを入力して下さい

ファイル通話テンプレート送信

17人

+招待

15:57

<空床情報>
一般男性 → 2 床
一般女性 → 0 床
認知症専門棟男性：2 床
認知症専門棟女性：0 床

状況は変動しますので、まずはお問合せください。
一か月程度の短期間入所も受け付けております。
胃ろうの方や特養待ちの方もご相談ください。
6 1 (7人)

返信

6/3 10:03

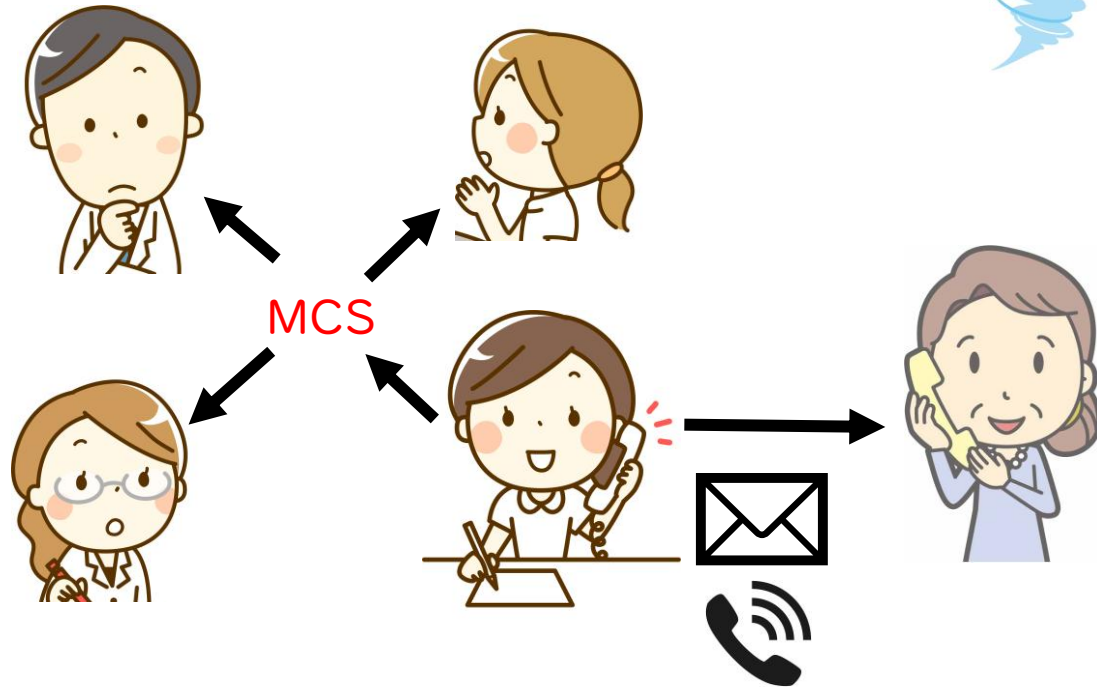
案内させていただきます

出典元：株式会社 コラボスクエア

活用事例（災害時の連絡ツール）

2024（令和6年）8月28日深夜 竜巻発生

MCSを使って安否確認、情報共有

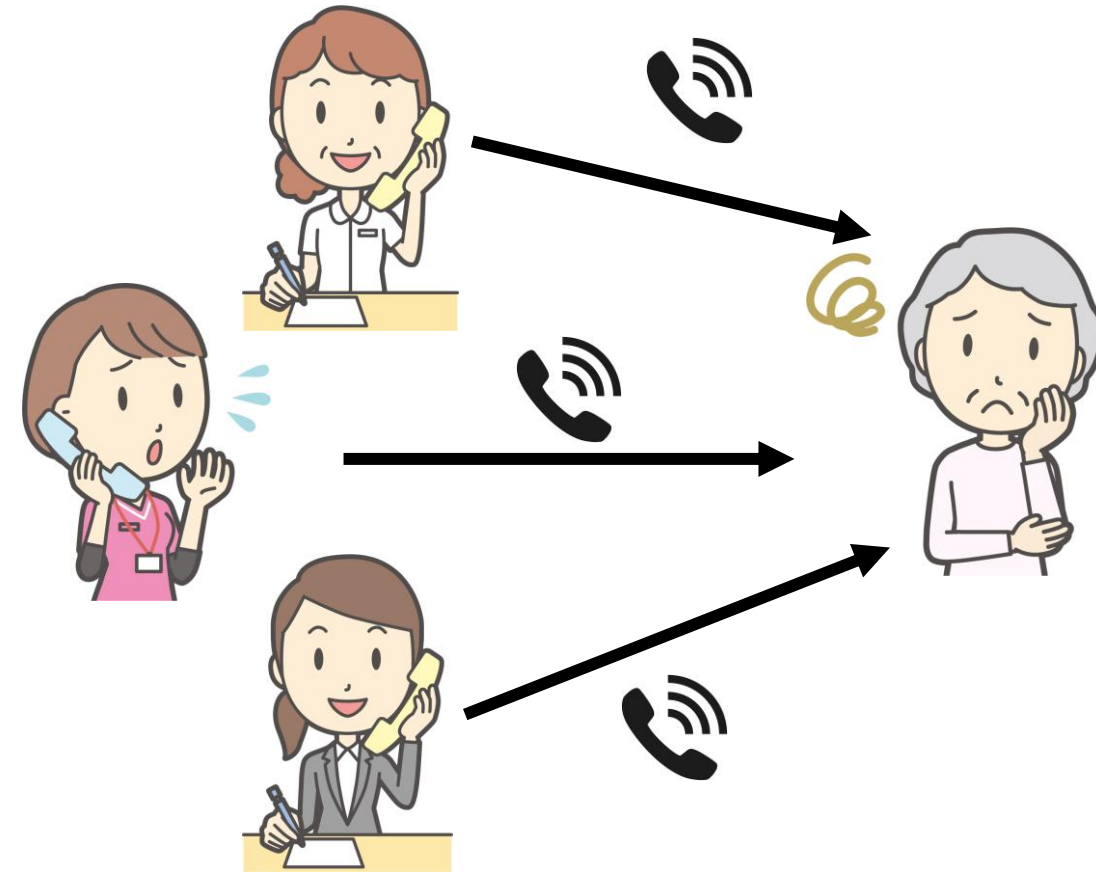


診療所より、メール等で家族等へ安否確認。
安否確認でき次第MCSに報告。関係者で情報共有。

※突然の竜巻被害で臨機応変な動きで対応
地域全体での取組は現在模索中です。



MCSを使わず安否確認



関係する全員が安否確認の電話を実施
多数から電話があり高齢者も不満

令和7年度の研修取組報告

研修の実施(MCS) 1日2回実施 ※介護系は昼の参加希望多く、医療系は夜の参加希望多い。

(ねらい) 令和6年度は、医療機関のスタッフを対象に研修実施。令和7年度は介護系施設の利用促進を目的に研修を実施。自由に使える掲示板を活用して空床共有や研修情報の展開、災害を想定した運用を紹介

日 時: 令和7年10月28日(火) 14:00~15:00

場 所: 宮崎市郡医師会館 1階 講堂(ハイブリッド)

研修名: ゼロから学んですぐに始められるMCS活用術

講 師: 宮崎市郡医師会 地域包括ケア推進センター 副参事 吉田 修 氏

参加人数: 66名 (会場11名 Web55名)

日時: 令和7年10月28日(火) 19:00~20:00

場所: 宮崎市郡医師会館 1階 講堂(ハイブリッド)

研修名: ゼロから学んですぐに始められるMCS活用術

講師: 宮崎市郡医師会 地域包括ケア推進センター 副参事 吉田 修 氏

参加人数: 44名 (会場8名 Web36名)

MCS活用術 (MCSの研修会)

公益社団法人 宮崎市郡医師会 地域包括ケア推進センター
社会福祉士 吉田 修

(研修実施根拠)

在宅医療介護連携推進事業

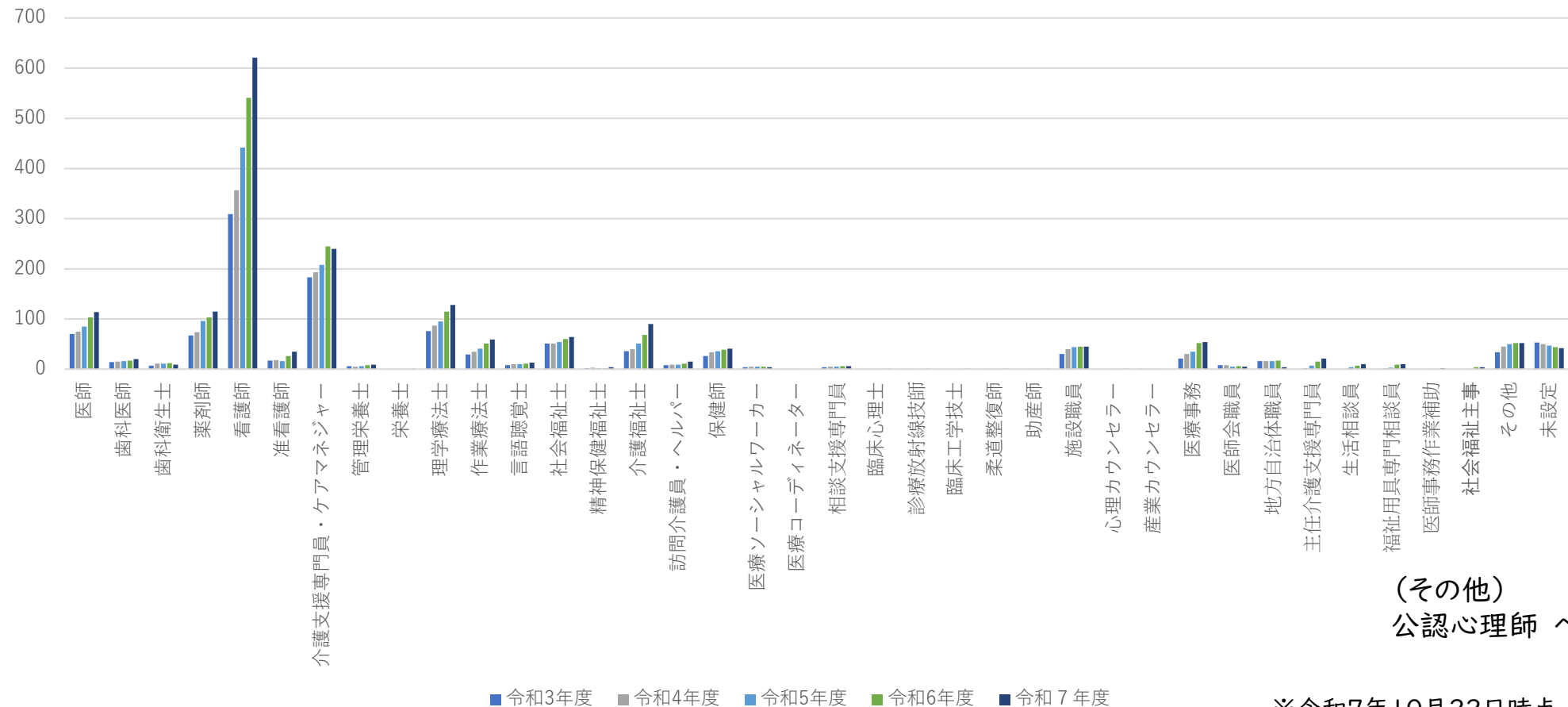
医療・介護関係者の情報共有支援

宮崎医療情報連携(MCS)の取組

宮崎市郡の メディカルケアステーション(MCS) 利用者推移

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
1084	1228	1408	1683	1845

職種別推移



(その他)
公認心理師 ヘルパー?

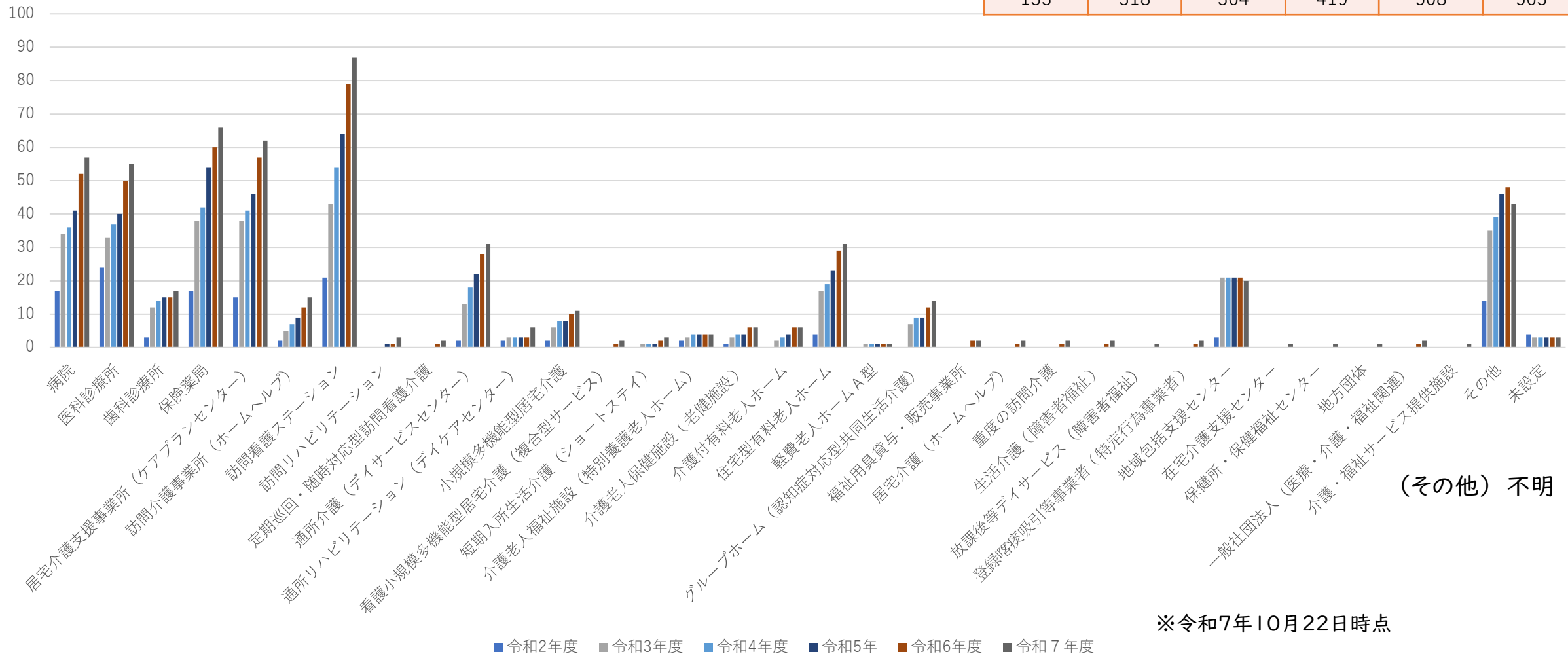
※令和7年10月22日時点

宮崎医療情報連携 (MCS) の取組

宮崎市郡の メディカルケアステーション (MCS) 利用施設推移

施設別推移

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年	令和6年度	令和7年度
133	318	364	419	508	563



今後の活用

コミュニケーションツールとしての重要性

介護情報基盤ポータルのように全国で活用できるICTが整備される。

忙しい多職種は、コミュニケーションの方法が重要。

今後も、SNS形式のコミュニケーションツールが重要視される可能性は高いと想像します。